No.	項目	規格	試験方法
1	抵抗値 (at 25 )	定格値を満足すること。	周囲温度25 において、最大電圧3分印加後、室温(25)に 2時間放置した後、1.5Vdc以下(測定電流10mA以下)の端子 電圧を用いて測定する。
2	耐振性	外観に著しい異常はありません。 25 抵抗値の変化率は、初期値の±20%以内にあ ります。(*)	JIS C 5102 8.2項によります。 試験治具にはんだ付けします。 振動 : 10~55~10Hz(約1分間) 全振幅: 1.5mm 互いに垂直な3方向に2時間ずつ(計6時間)行います。
3	はんだ付け性	端子電極の3/4以上に切目なくはんだが付着します。 25 抵抗値の変化率は、初期値の±20%以内にあります。(*)	JIS C 5102 8.4項によります。 はんだ温度: 230±5 はんだ: H60AまたはH63A 浸漬時間: 3±0.5秒 浸漬位置 : 端子電極が隠れるまで。
4	はんだ耐熱性	外観に著しい異常はありません。 25 抵抗値の変化率は、初期値の±20%以内にあります。(*)	はんだ:H60AまたはH63A フラックス:塩素含有0.2Wt%以下 クリームはんだ 予熱温度・時間:150±5 3分 ピーク温度・時間:260±5 10±5秒(リフロー) 使用基板:ガラス布基材エポキシ樹脂 JIS C 6484
5	温度サイクル	外観に著しい異常はありません。 25 抵抗値の変化率は、初期値の±20%以内にあ ります。(*)	JIS C 5102 9.3項によります。 温度サイクル: 5回
6	耐湿性	外観に著しい異常はありません。 25 抵抗値の変化率は、初期値の±20%以内にあ ります。(*)	JIS C 5102 9.5項によります。 温度40±2 、相対湿度90~95%の恒温恒湿槽に入れ、 500±8時間放置します。
7	高温負荷	外観に著しい異常はありません。 25 抵抗値の変化率は、初期値の±20%以内にあります。(*)	JIS C 5102 9.10項によります。 温度85±5 の恒温槽に入れ、最大電圧を1000±12時間印加します。

<sup>(\*)</sup> 抵抗値測定は、1.5 Vdc以下(測定電流10 mA以下)の端子電圧を用いて行います。 試験後の抵抗値測定は、25±2 中に2時間放置後行います。

<sup>2.</sup>耐振性評価時のはんだ付けは、標準ランド寸法のガラスエポキシ基盤に、「使用上の注意」に記載の弊社標準評価はんだを用い、標準のはんだ付け条件により行っています。